

世界が進むチカラになる。



景気ウォッチャー調査 (東海地区:2024年4月)

2024年5月10日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

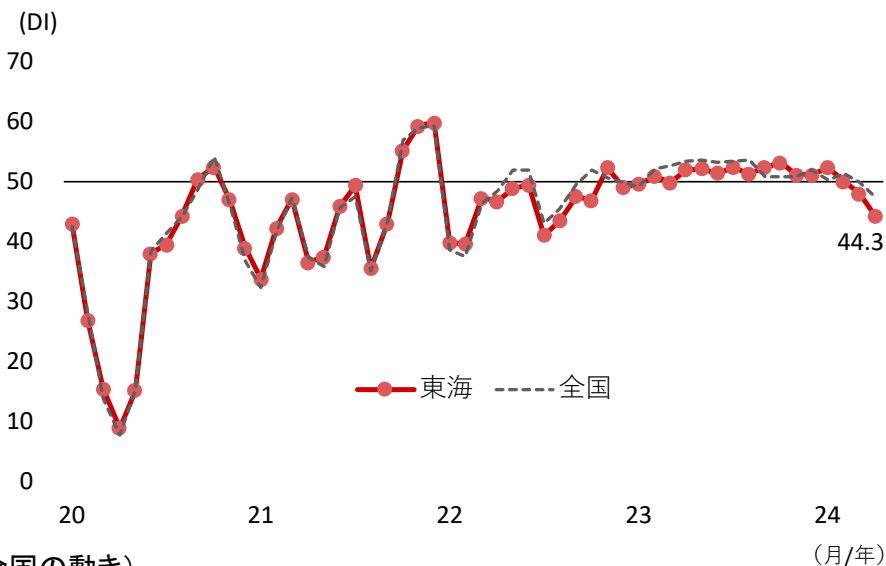
※本レポートは今回が最終回となります。来月以降の東海地区の「景気ウォッチャー調査」の結果・内容につきましては、内閣府ホームページ、もしくは当社レポート「グラフで見る東海経済」をご参照ください。

2024年4月の動き(東海地区)

5月10日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の4月の

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差3.7ポイント低下の44.3となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差2.3ポイント低下の48.6となった。
- 物価高、コスト高が響き、景況感の持ち直しの動きが一服している。先行きについては、インバウンドへの期待がある一方、物価上昇による消費減、経費増による利益減が懸念されている。

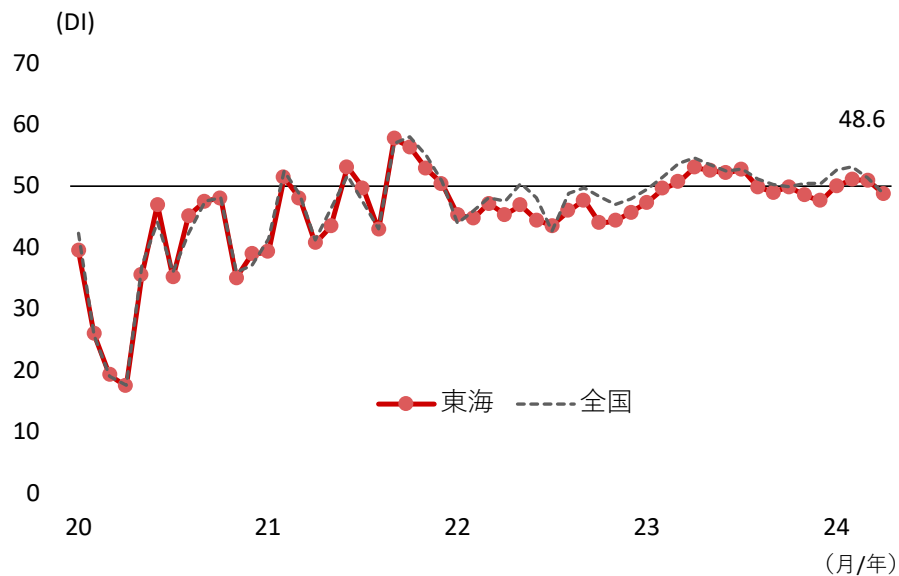
現状判断DI(季節調整値)



(全国の動き)

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差2.4ポイント低下の47.4となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差2.7ポイント低下の48.5となった。
- 景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、このところ弱さがみられる。また、令和6年能登半島地震の影響もみられる。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。

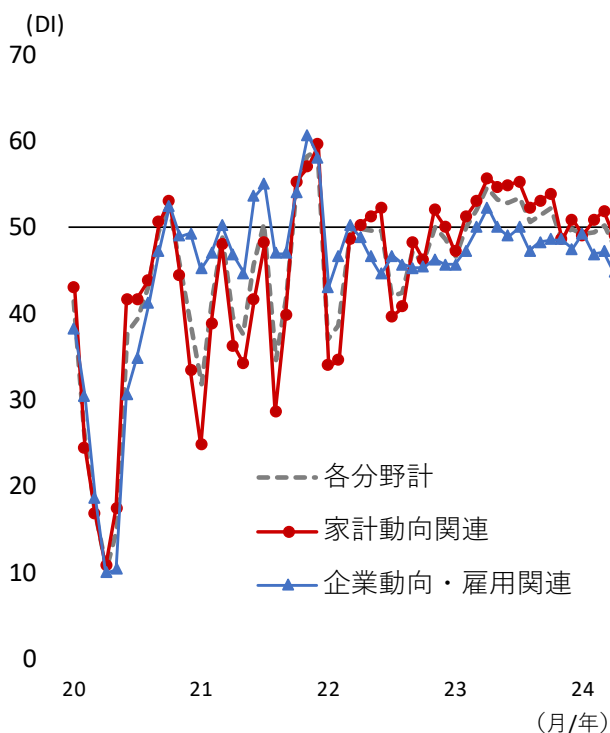
先行き判断DI(季節調整値)



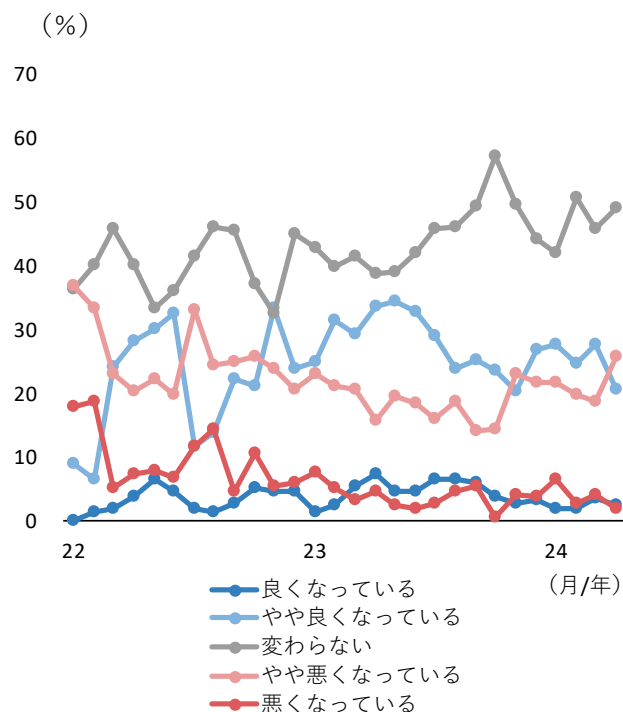
景気の現状判断(3カ月前との比較:原数値)

- 家計動向関連DIは横ばいを示す50を3カ月ぶりに下回り、企業動向・雇用関連DIは9カ月連続で下回った。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が低下、「変わらない」、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が上昇した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)、「変わらない」が低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が上昇した。

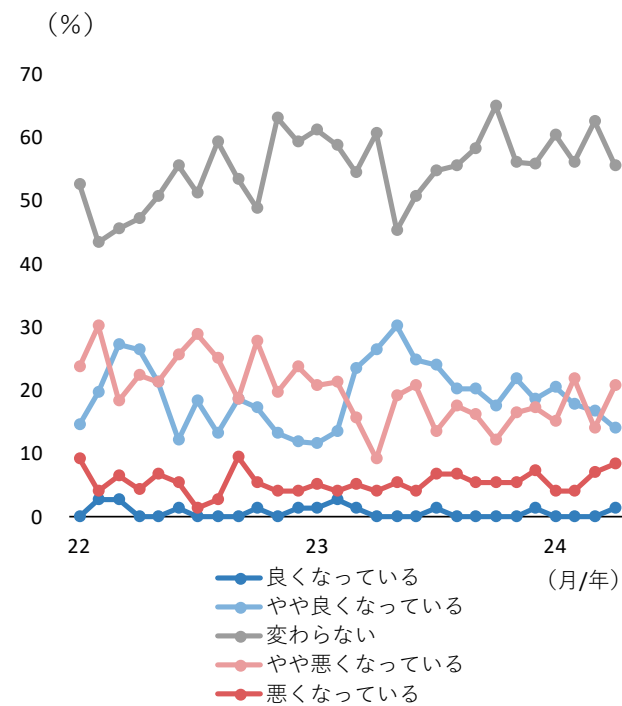
現状判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



現状判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】 円安、物価高の影響で、消費に陰りが見受けられる。

□	百貨店（経理担当）	・売上は引き続き前年を上回る高い水準を維持しているが、中間所得層の消費マインドに陰りがみられる。
□	スーパー（営業企画）	・春闘の状況から消費意欲の向上を期待したが、現状は、売上、来客数、客単価共に前年比で大きな変化はみられない。
▲	スーパー（総務）	・来客数は変わらないが、販売数が1割近く減少している。物価上昇の影響が大きい。
▲	乗用車販売店（販売担当）	・円安の影響で車両本体価格がかなり上昇しており、価格を伝えると客の購入意欲が減退してしまう。
▲	その他飲食 [ワイン輸入]（経営企画担当）	・円安を受けた値上げの影響が大きい。1つ1つは小さな値上げだが、家計への影響が大きいことを消費者は重く受け止めており、購入量が減少している。

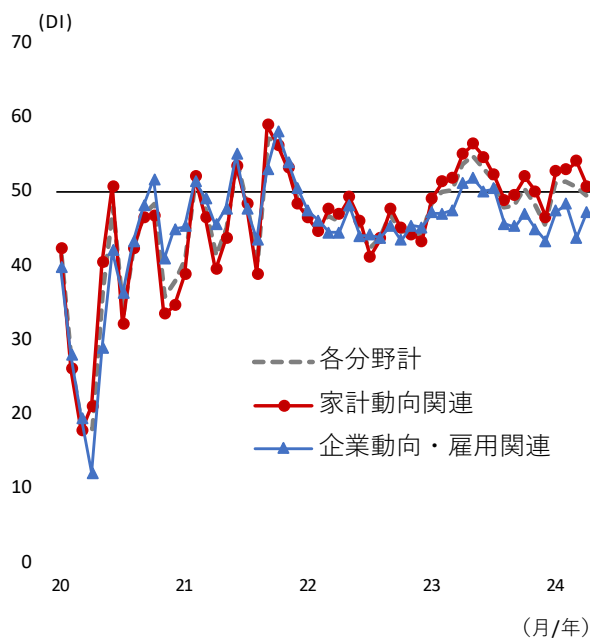
【企業動向・雇用関連】 経費増による利益減、受注の伸び悩み、求人の減少などが指摘されている。

□	会計事務所（職員）	・賃金引上げや物価上昇に伴う経費の増加で、売上が増加しても利益の増加につなげていない。
▲	輸送業（従業員）	・3月の繁忙期を過ぎて少し落ち着くのは例年のことであるが、例年より出足は若干鈍い印象を受ける。世間での物の動きはそれほど変わっていない様子だが、当社の荷主については、年度が替わってからの動きが良くない。大型連休以降に期待したい。
▲	人材派遣会社（社員）	・極端に動きが悪かった3月から、更に悪化した印象を受ける。前年と比較しても悪化している。
▲	人材派遣会社（営業担当）	・求人数は底堅い状況であるが、求職者との条件が合わず採用数は減少傾向にある。
×	鉄鋼業（経営者）	・今年に入ってからずっと悪い。受注量、販売量共に例年より5～10%ほど減少している。

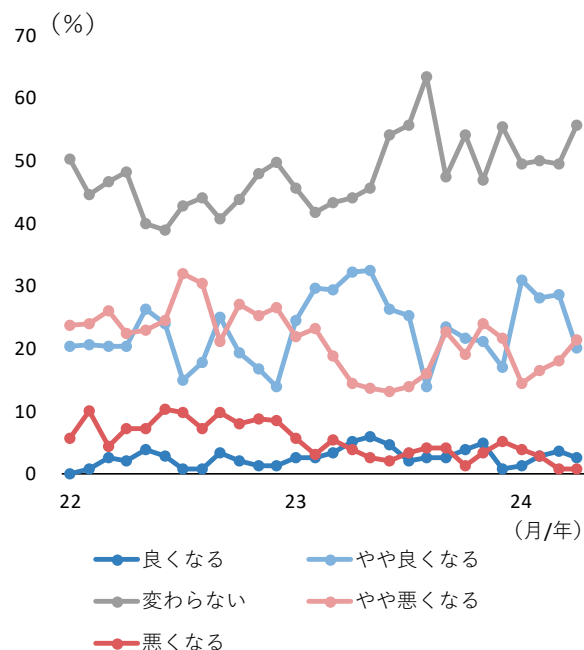
景気の先行き判断(2~3ヵ月先の見通し:原数値)

- 家計動向関連DIは、横ばいを示す50を上回り、企業動向・雇用関連DIは50を下回る状態が続いている。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が低下、「変わらない」、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は上昇した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が上昇、「変わらない」、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が低下した。

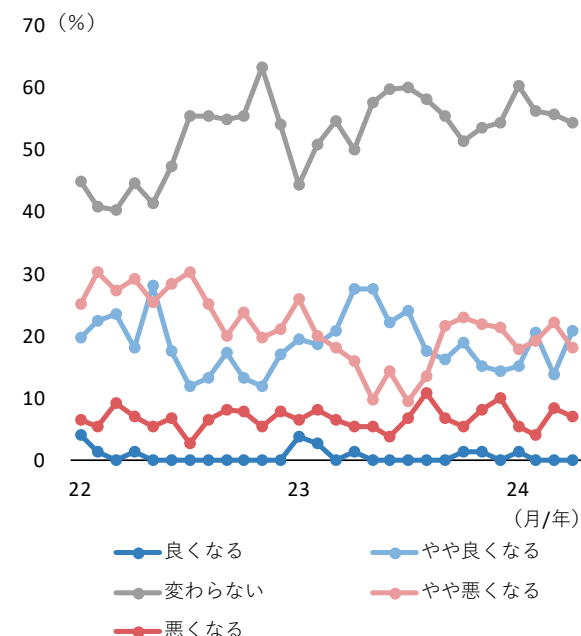
先行き判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



先行き判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】物価高による消費減を見込む声が見られる。

□	商店街（代表者）	・いろいろな物が大変な勢いで値上がりしており、消費者の財布のひもが固くなっている。景気が良くなる原因として、物価高の影響は大きい。
□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・賃金が上がっているのは大手企業だけで、身の回りでは上がっているところは少ないと聞く。財布のひもは固い。
□	住関連専門店（営業担当）	・建築資材価格やローン金利などの上昇が大きく、客の予算と現場から出される価格との差が著しくなっており、契約がまとまらない物件が多くなっている。改修物件については、新築ほどではないものの、やはり予算を実際の工事費が大きく上回るケースが出てきており、大型物件の動きが鈍くなっている。
▲	百貨店（経理担当）	・株高や円安の影響を受けて富裕層やインバウンドの消費は引き続き堅調に推移すると考えるが、中間所得層の消費減退が進むことで、全体の景気は緩やかにマイナスに転じる。
▲	理美容室（経営者）	・客からは物価や社会保険料の話題ばかりで、給料が上がらないという声も聞く。この状態では景気は悪くなる一方である。

【企業動向・雇用関連】コスト増、人手不足などが懸念されている一方で、一部で求人の減少も指摘されている。

○	一般機械器具製造業（営業担当）	・円安で価格競争力は高止まりしており、欧米向け受注が回復する兆しがある。
□	建設業（役員）	・住宅販売は、他社情報も含め好調な話がない。今後、国の定める省エネ基準が厳しくなり、更なる建築コストアップによる販売価格上昇と住宅減税の縮減が、販売に影響するおそれがある。
□	輸送業（従業員）	・運送業界は2024年問題があり、この4月から労働環境の改善という課題に直面している。今までどおりの運行はできなくなり、車両、人員もなかなか増やすことができない。人材不足は運送業界に限った話ではないため、売上の減少は仕方ない。
□	職業安定所（所長）	・円安や物価高騰等が雇用に与える影響は軽視できず、建設業など一部業種では、求人を控える動きもある。
□	職業安定所（雇用開発担当）	・当地域の基幹産業である製造業の求人が、前年を下回る傾向が続いている。

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー